

カラーマーク収集 坂本祥三

カラーマークは、それぞれの切手に使われた^{きつしよく}刷色とその数を示すもの。シートの特定の位置（基本的に4番目又は94番目/例外もあり）の耳紙に印刷される。

従って、その個数は切手の刷色数を表す(1個なら1色刷り、2個なら2色刷り…)普通切手のカラーマークは、1976年の10月以降に製造された切手から付けられており、1980年シリーズ以前の切手には発行当初からついているが、それ以前の切手にはカラーマークはなく、途中からカラーマーク付に変更されている。

ただし、1972年シリーズの1000円切手(477#・吉祥天立像)は、カラーマークなしのまま1990年代まで製造が続けられた。



私は、基本的にゼネラルコレクションをやっています。自分の気に入った切手を収集して、皆さんも同じかもしれませんが、限られた予算をフルに活用しています。

今回は、今一番力を入れている普通切手のカラーマーク付 10 枚ブロックなどをご披露しました。支部の皆さんの中にも、私と同じく普通切手の銘版付きやカラーマークを収集されている方もいるかと思います。

カラーマークは、前述のように 1976 年代から付けられましたが、色の濃淡差などにバラエティーが確認されており、「暫定版」・「複合版」・「正規版」と分類がやっかいです。

「複合版」とは、「暫定版」から「正規版」へ移行する過渡期に登場したバラエティーです。

これには、「暫定版」と「正規版」の両方の特徴が混在しています。分類は、専門的な知識も必須です。私は現在、そこまではこだわってやっておりません。

切手展に出品するには、非常に難しい状態ですが熊本支部の皆さんのご協力のおかげで、多くの切手を集めることができました。

まだまだ足りませんが、先ず第一歩を踏み出すことができ感謝しております。

